

# 津田かおり

## 通信

VOL 11 2022 夏



### 6月議会での一般質問

1. 生活者目線の物価高対策
2. ヤングケアラーへの支援
3. 带状疱疹ワクチン接種の助成
4. 自殺予防対策

--- 詳細は次項へ ---

新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵略物価の高騰、次から次へと新たな問題が起こってきます。世の中が将来へ向けて、なにか言いようのない不安に包まれています。こんな時であるからこそ、「目の前の一人の人」を大切にして、市民の皆様が少しでも安心して包まれた生活が送れるように尽力してまいります。

### 市長へ要望書を提出

本年度は「経済企業委員会」委員長の任を受け委員会活動にも取り組んでいます。

ロシアのウクライナ侵略に伴う燃油価格の高騰円安の進行によって輸入品に頼る製品・原材料の一層の高騰も懸念されています。本格的な影響が出るのはこれからで、市民生活への影響は、必至です。そこで6月2日、福井市議会公明党は、市長に対して「地方創生臨時交付金の積極的な活用」に関する要望を行いました。（概要は以下の4点）

- ・学校・保育所・認定こども園などの給食費の負担軽減
- ・生活困窮者に対する臨時特別給付金の支給対象の拡大
- ・バス・タクシーなどの地域交通の経営支援
- ・地域の物流の維持や確保に対する支援



左から 津田かおり・菅生敬一・下畑健二

## 給食費は値上げしません！

(本年度)

「学校給食材料費高騰対策事業」において2,000万円を6月補正予算に計上。本年度は、小中学校の給食で、今まで通り栄養バランスや量を保ったおいしい給食を提供します。

市民の皆様からの地域に対するご要望・ご相談に速やかに対応させていただきます！

津田かおり  
ホームページLINEでも  
お気軽に！〒910-0065  
福井市八ツ島町 15-1-4

電話・FAX 0776-92-0686

E-mail kaoritsuda2018@yahoo.co.jp

## 生活者目線の物価高対策

**Q** 認定こども園などの副食費を実費で支払っている園児数と物価高騰に対する今後の対策は？

**A** 6月1日現在、実費負担対象の園児は6,068人そのうち減免の1,759人を除く4,309人が実費で支払っている。現時点では実費増額は予定していないが、私立園で10月から値上げを予定している園が1園ある。今後は、状況を注視して支援策について検討していく。

**Q** 物価高のあおりを受けるのは市民全員、地方創生臨時交付金を活用して水道基本料金を一定期間無料にすることはできないか？

**A** 市の上水道ではなく、民営簡易水道や井戸水を利用している場合や集合住宅では入居者が直接契約をしていない場合などがあり、公平性が課題になる。社会情勢を見ながら慎重に検討していく。

**Q** 住民税非課税世帯、家計急変世帯への臨時特別給付金の交付件数と給付金の対象外となる非課税世帯、また所得の低い住民税非課税世帯に対する支援は？

**A** 5月末時点で住民税非課税世帯は19,448件、家計急変世帯は64件。新型コロナウイルス感染症の影響を受けている生活困窮者に対して、地方創生臨時交付金を活用した光熱費助成事業を6月補正予算に計上。追加の支援は国の更なる財政措置が必要で、全国市長会を通じて国に要望していく。



## 自殺予防対策

**Q** 本市の自殺の現状と所見を・・・

**A** 原因は、多い順に健康問題、家庭問題、経済・生活問題。  
性別では、20歳未満及び80歳以上を除き、男性の割合が高い。  
年代別では、40歳代が最も多く、次いで70歳代。  
自殺の原因を特定するのは困難であるが、2021年度は、前年より11人増となっていることから、少なからずコロナ禍の影響を受けていると考えられ、より丁寧な支援に取り組んでいく。

**Q** ゲートキーパーの養成と今後の取り組みは？

**A** 2013年度より「ゲートキーパー養成研修」を実施している。昨年末までに1,203人が受講している。今後は、研修の開催数を増やすとともに、大学生も対象にしていくとともに、スキルアップも図っていく。

**Q** 自殺未遂の救急搬送の出動回数と全体の割合は？

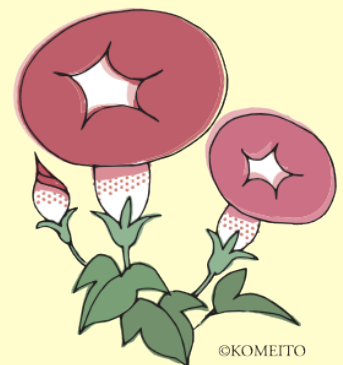
**A** 救急出動では、自殺は「自損事故」として取り扱っている。  
昨年度の総搬送人員9,238人中58人で、約0.6%となっている。

**Q** 福祉総合相談室よりそいの自殺予防への具体的な取り組みは？

**A** 精神保健福祉士や臨床心理士などの専門職員を配置、必要に応じて市保健所や県精神保健福祉センターと連携した対応を行っている。

厚労省の「地域における自殺の基礎資料」より

2017年	45人
2018年	39人
2019年	37人
2020年	30人
2021年	41人
2022年3月末時点	8人



©KOMEITO

## 带状疱疹ワクチン接種の助成

**Q** 带状疱疹ワクチンの効果をどのように考えるか？

**A** 2017 年国立感染症研究所の「ファクトシート」では、生ワクチンについて、60 歳以上で带状疱疹発症が 51.3%減少、带状疱疹後神経痛発症が 66.5%減少したと報告されている。またワクチンの安全性は、接種部位の痛みや腫れ、倦怠感などの副反応の報告があるが、特段の懸念の報告はない。

**Q** 带状疱疹ワクチンの周知と接種の推進はなされているか？

**A** 带状疱疹は、法令に定められた対象疾病ではないため、任意の予防接種となっている。そのため周知や積極的な勧奨はしていない。

**Q** 高額な費用負担となるため、ワクチンの接種費用を助成すべきでは？

**A** 現在、厚労省において定期接種化に向けて審議中、この状況を注視して適切に対応していく。



## ヤングケアラーへの支援

**Q** 本市のヤングケアラーの実態は？

**A** 県が昨年度、高校2年生・中学2年生に対してアンケート調査を行った。本市として620人の回答があり、38人が「世話をしている家族がいる」そのうち15人が「誰にも相談したことがない」と回答している。また全体の6割が「ヤングケアラーという言葉聞いたことがない」と回答しており、認知度の低さが明らかになった。世話の内容は「家事」が約6割で最も多く、頻度は「ほぼ毎日世話をしている」「1日1時間」との回答が最も多かった。

**Q** ヤングケアラーの広報・周知の方法は？

**A** 小中学校に啓発リーフレットの配布を6月中に行う。また児童館や商業施設等へのポスターの掲示、ホームページに相談先の掲載も行う予定。

**Q** 教育現場での具体的な取り組みは？

**A** 定期的なアンケート調査・保護者面談や家庭訪問を通じて、早期発見に努めている。発見した場合は、スクールカウンセラーによる心のケアを行っていく。また必要に応じて、スクールソーシャルワーカーの派遣など、様々な支援を行っていく。

**Q** 多機関の連携体制、専門職への周知・研修は？

**A** ヤングケアラーも「要保護児童対策地域協議会」で支援協議を行っていく。教職員・介護・医療関係にも研修会等を通して周知していく。

**Q** ヤングケアラーへの具体的な支援は？

**A** 子育て支援のための保健師・ヘルパーによる支援、またケアの対象となっている方へ、介護・障がいサービスをヤングケアラー家庭に拡大していく。



たとえば病気の家族の介護



たとえば幼い兄弟の世話

議会動画

6月15日  
本会議一般質問



委員会動画

6月17日  
経済企業委員会





市民相談や地域からのご要望を受けて、整備できたものを抜粋して掲載しています。

## 安心安全のまちづくり



QRコードを読み込むとGoogle Mapが表示されます。地図中の「赤い番号」をタップすると現場の写真が表示されます。

### 64 高塚町カーブミラー



### 71 東安居団地駐車場通路

団地側から見る



食料品店側から見る



### 68 未更毛川(羽坂町)防護柵修繕



### 65 加茂河原カーブミラー



## 3年ぶり 福井市総合防災訓練

6月26日、3年ぶりに福井市総合防災訓練が開催されました。本年は、地元の日新地区が福井市のメイン会場になり、住民や消防団の皆様、約1,400人が参加しました。



私もマンホールトイレに座ってみました。



コロナ下での避難所設営を確認しました。



日新小学校児童による、息の合ったバケツリレー訓練。



地元の消防団「日新分団本部」の皆様による放水訓練。



防災ヘリが飛来して、校舎屋上に取り残された人を救助しました。